

大船渡市子どもの生活実態調査の実施にかかる結果報告について<速報版>

1 調査の目的

子どもに関する貧困対策をより一層推進するため、各自治体に対し、貧困計画の策定が努力義務とされていることから、「第2期大船渡市子ども子育て支援事業計画」の中間見直しに合わせ、貧困計画を盛り込むこととし、子ども及び子育て家庭の現状や意向を把握することを目的とし、実施したものです。

2 調査方法

無記名によるアンケート方式とし、小・中学校を通じて調査票を直接配布、回収。

3 調査期間

令和3年12月3日から12月17日まで

4 調査内容

家族構成、生活環境（ヤングケアラー含）、保護者等の就労状況、経済状況、教育や学習に関すること、子どもの学校生活における問題、悩みなど

5 調査対象者及び回答結果

市内の公立小・中学校に在籍する小学5、6年生の児童及び小学1年から6年生までの児童の保護者及び同中学校1年から3年生の生徒及び生徒の保護者

対 象	配布対象者数	有効回答者数	有効回答率
児童 (小学5、6年生)	494人	428人	86.6%
児童の保護者 (小学1～6年生)	1,410人	1,130人	79.9%
生徒 (中学1～3年生)	745人	623人	83.6%
生徒の保護者 (中学1～3年生)	745人	611人	82.3%
計	3,394人	2,792人	82.3%

※ 令和3年11月1日現在に大船渡市に在住する児童等の保護者を対象とし、兄弟がいる場合には、年齢の低い方の児童について回答をお願いした。

※ 有効回答者数(N)は、保護者1,741人、児童・生徒1,051人となる。

6 調査結果の概要

(1) 保護者への質問項目及び結果について

① 回答者及びその子の属性について (問1から9まで)

- ・回答者1,741人のうち、約8割が母親となった。(P. 2 図1)
- ・住まいの状況については、半数が回答者本人もしくは配偶者の名義による住居で、次いで親族名義の持家が3割、民間アパート、市営・県営住宅が2割弱を占めた。(P. 2 図2)
- ・回答者1,741人のうち、「配偶者がいる」と回答したのは1,456人(83.6%)、「いない」と回答したのは260人(14.9%)であった。
- ・普段一緒に住んでいる世帯の人数は平均で4.3人であった。

- ・兄弟姉妹の数は平均で2.4人であった。
- ・「子どもの子育てを主に行っているのはどなたですか？」の設問に対し、「父母ともに」が半数以上を占め、次いで「主に母親」は4割弱となった。「その他」として、「家族全員で子育てをしている」という回答が数件寄せられた。(図3)
- ・家族の中でお世話が必要な人(高齢者、障がい者等)の有無については、表1のとおりとなるが、「定期的な通院が必要」が同居・別居共に最も多い回答となった。

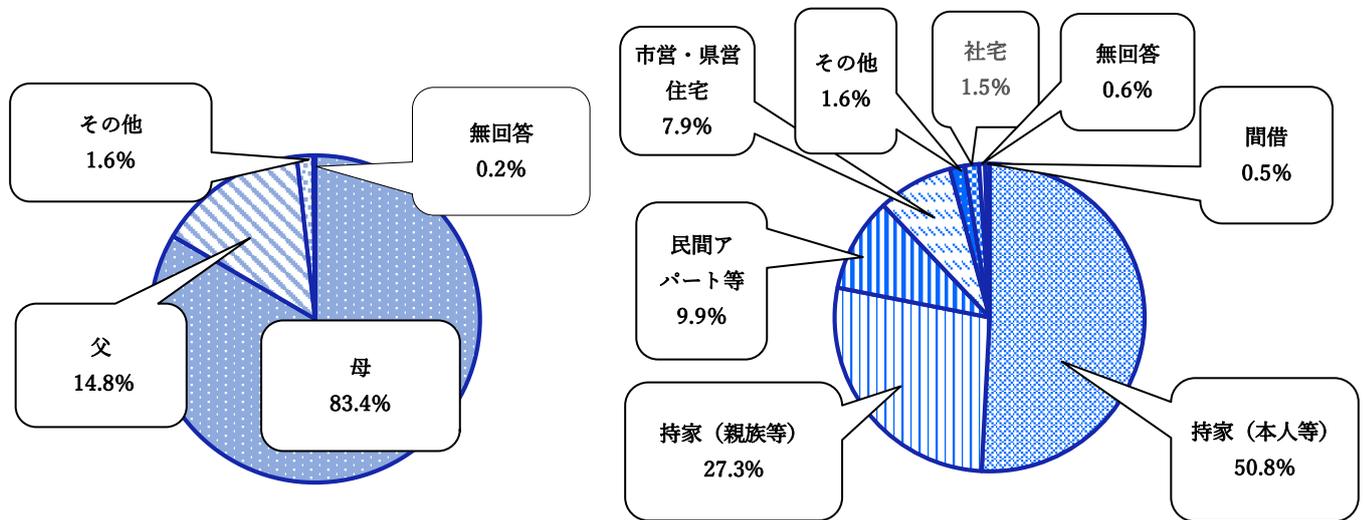


図1 回答者

図2 住まいの状況について

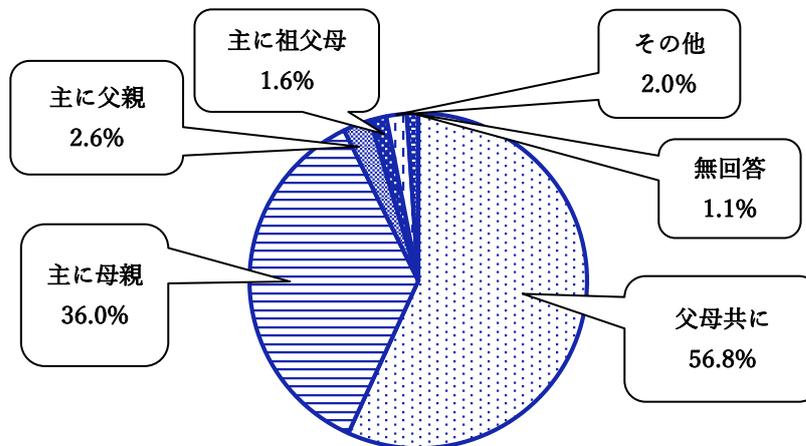


図3 子育てを主に行う者

※図1～3いずれもN=1,741人

○表1 お世話が必要な家族の有無

高齢介護		身障者手帳該当		精神手帳該当		療育手帳該当		発達障がい該当	
同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居
56	52	81	29	14	7	43	3	76	5

通院が必要		精神疾患等該当		引きこもり		特に該当なし	全ての項目に無回答
同居	別居	同居	別居	同居	別居		
239	68	55	11	13	3	1,111	141

② 保護者（母親、父親）の就労状況について（問 10、11、12）

今回、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」と言う）の影響等の有無についても調査の対象としている。

問 10 については、母親、父親のコロナ前（令和 2 年 2 月以前）、現在の就労状況等について回答をいただいた。（表 2 及び 3）

なお、コロナ前後の就労状況について、片方のみの回答があったため、数字は一致しない。

母親については、常勤・正規職員等とパート・アルバイト等の割合が高くなっているが、コロナによる失職等の影響は少なかったと推測される。また、父親についても、コロナによる失職等は少なかったことが推測される結果となった。

○表 2 母親の就労状況 (人)

	常勤・正規職員、会社役員	パート・アルバイト・非正規職員	自営業・家業	その他の職業	家事専業	その他	就労していない	今まで就労したことがない	無回答	合計
母親 コロナ前	745	601	110	9	88	7	42	2	137	1,741
母親 現在	749	581	105	8	92	13	59	0	134	1,741

○表 3 父親の就労状況 (人)

	常勤・正規職員、会社役員	パート・アルバイト・非正規職員	自営業・家業	その他の職業	家事専業	その他	就労していない	今まで就労したことがない	無回答	合計
父親 コロナ前	1,268	28	132	10	3	2	7	1	290	1,741
父親 現在	1,251	27	139	9	3	3	17	0	292	1,741

問 11 については、コロナの拡大等により、保護者の仕事の形態への影響について質問をしているが、ほとんどの保護者が「影響なし」と答えている。（図 4）

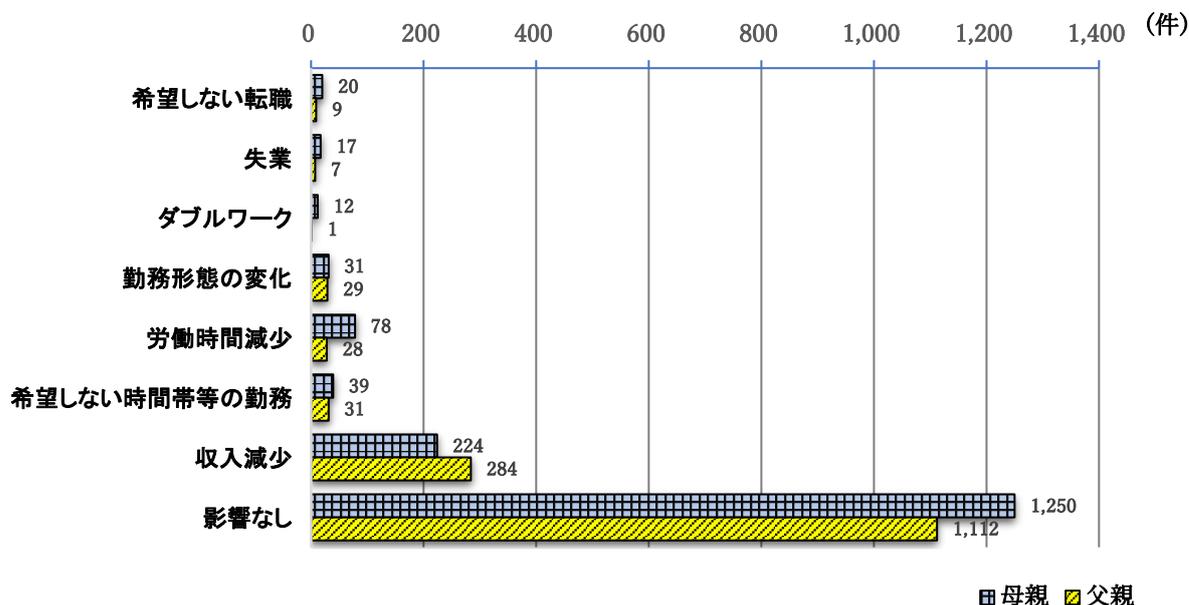


図 4 コロナに伴う仕事への影響（複数回答）

問12については、現在、就労している方へ、日曜・祝日の就労状況について質問したところ、「日曜日・祝日いずれも休み」が全回答者の半数近くを占め、「不定期出勤」が、587人(34%)と大半を占めた。(図5)

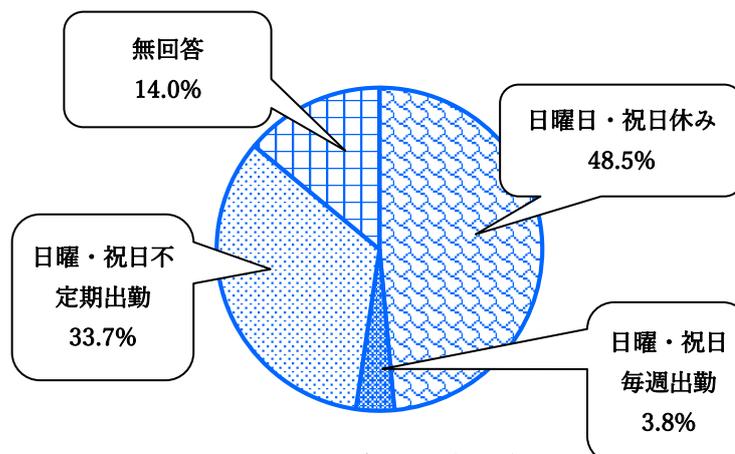


図5 日曜・祝日の就労状況

③ 子どもの健康状態等について (問13から15-1まで)

問13の健康状態に関する回答は、「良い」、「どちらかと言えば良い」がほとんどであったが、一部悪い傾向にあると思われる子どもも若干名見られた。(表4)

また、問14の虫歯の状況についても、「ない」、「あった(治療済)」、「ある(治療中)」の回答がほとんどだったが、「ある(治療をせず)」が一定数、また、子どもの虫歯の状態を把握していないと思われる「分からない」を選択した回答も見られた。(P.5表5)

さらに、問14の設問の「ある(治療をせず)」を選択回答した場合、問14-1で虫歯の治療をしていない理由についても回答が必要となるが、「治療予定」の回答が大半となった一方、一部の回答で「経済的に困難」、「特に理由はない」が見られた。(P.5、表6)

問15では、過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際の受診の有無について質問している。ほとんどの保護者が「なかった」を選択しているが、1割程度、「あった」とする回答者も見られた。(P.5表7)

問15-1では、問15で「あった」と回答した回答者に対し、理由を聞いているが、「多忙だったため」が最も多く、次いで「コロナの影響で医療機関への受診を控えた」、「子どもが受診したがらなかった」の回答が多かったが、一部、経済的な理由により受診を見合わせたを選択した回答も見られた。(P.5図6)

その他の意見として、「子どもの部活動で時間が合わない」、「学校を休む、早退しないといけないため」、「(保護者等が)仕事が休めないため」、といった、医療機関の診療時間に合わせた受診が難しいといった内容の回答が複数寄せられている。

○ 表4 子どもの健康状態

(人)

良い	どちらかと言えば良い	どちらかと言えば悪い	悪い	無回答	合計
1,491	216	20	3	11	1,741
(85.6%)	(12.4%)	(1.1%)	(0.2%)	(0.6%)	(100%)

○ 表5 子どもの虫歯治療

(人)

ない	あった (治療済)	ある (治療中)	ある (治療せず)	分からない	無回答	合計
581 (33.4%)	763 (43.8%)	212 (12.2%)	142 (8.2%)	21 (1.2%)	22 (1.3%)	1,741 (100%)

○ 表6 虫歯を治療していない理由

(人)

治療予定	行く時間 が無い	経済的に 困難	治療する 必要無	特に理由 はない	その他	無回答	合計
78 (54.9%)	32 (22.5%)	6 (4.2%)	3 (2.1%)	2 (1.4%)	7 (4.9%)	14 (9.9%)	142 (100%)

○ 表7 過去1年間における受診の有無

(人)

受診させなかった ことが「あった」	受診させなかった ことは「なかった」	無回答	合計
168 9.6%	1,486 85.4%	87 5.0%	1,741 100.0%

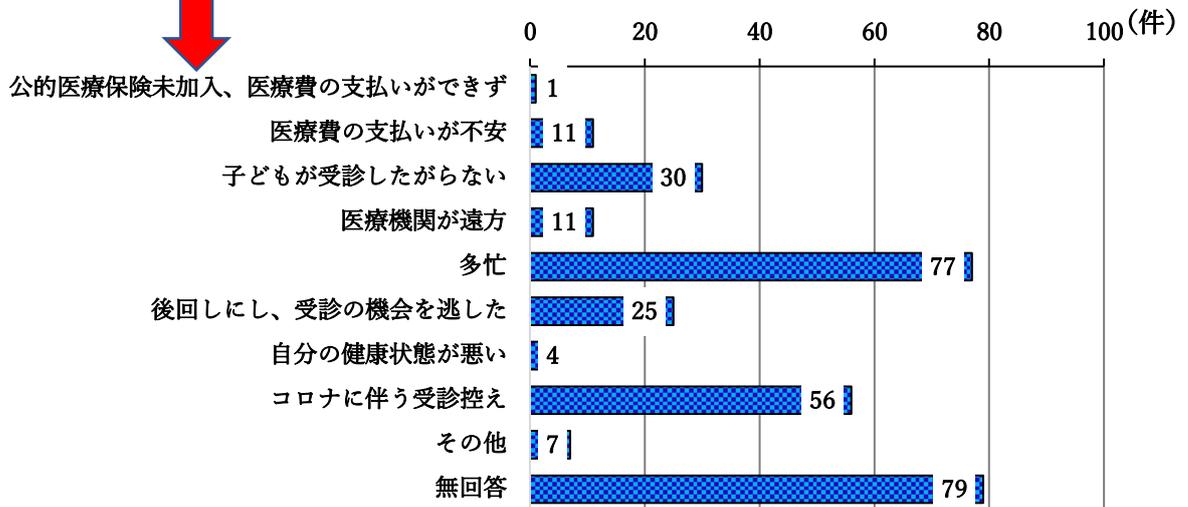
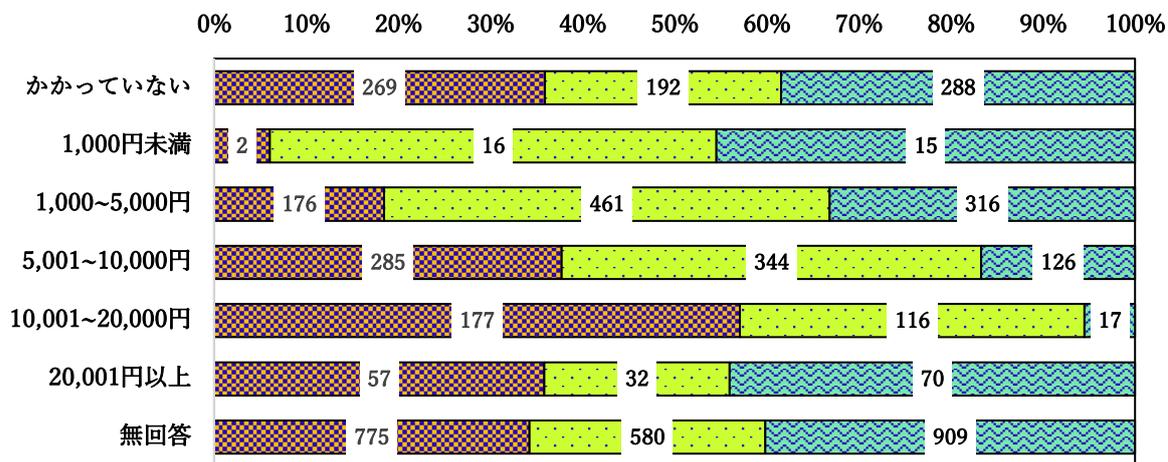


図6 受診できなかった理由(複数回答)

④ 子育てにかかる費用について (問16から22-1まで)

問16では、子ども1人に係る各費用(教育費、習い事、それ以外の費用等)について質問したところ、以下の図のとおり結果となった。(P.6 図7)

教育費については、「1,000~5,000円」、「5,001~10,000円」の層が多くなっている。



■ 塾など、学校以外でかかる教育費 □ 習い事・クラブ活動費等 ■ その他 (携帯料金など)

図7 子どもに係る各種費用等について ※表中の数字の単位：人

問17では、公的年金や社会保障給付金の支給額について質問している。

児童手当については、全回答者の8割以上が受給（無回答除く）していると回答、児童扶養手当（所得が一定水準以下のひとり親世帯に対し支払われる給付金）については、回答者の1割弱程度が受給（無回答除く）、また特別児童扶養手当（所得が一定水準以下の、20歳未満で精神または身体に障害を持つ児童の保護者に対し支払われる給付金）については、回答者の2.6%程度が受給（無回答除く）しているという結果となった。

問18では、子どもと生計を共にしている世帯全員の、令和2年中のおおよその年間収入について質問している。（図8）

最も収入の割合として多かったのは「500~700万円」の層で、全体の2割弱を占めた。（無回答を除く）

なお、年収が200万円未満と回答した人は全部で148人となり、全体の1割弱を占めた。

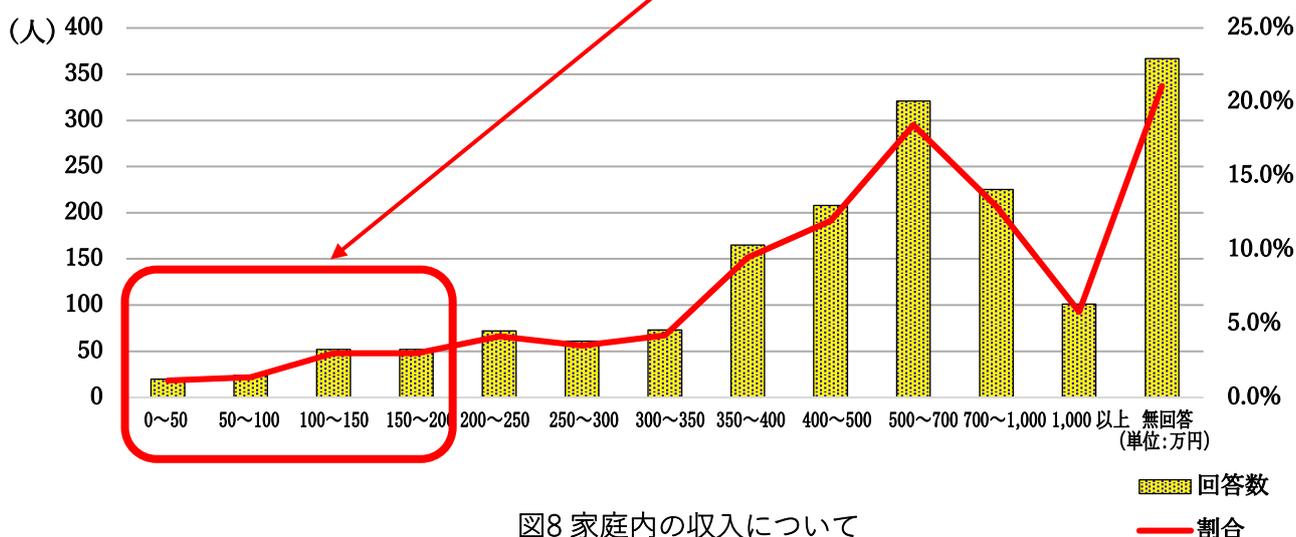


図8 家庭内の収入について

問19では、コロナの感染拡大に伴う収入の変化について質問した。（P.7 図9）

令和2年2月以前（コロナの感染拡大前）と現在（令和3年12月時点）を比較した場合、家庭内の月間収入がどの程度、変化したかという問いに対し、ほとんどの回答は「変化なし」であったが、「1割~3割減少」の回答が全体の2割程度を占め、コロナの影響が多少伺える結果となった。

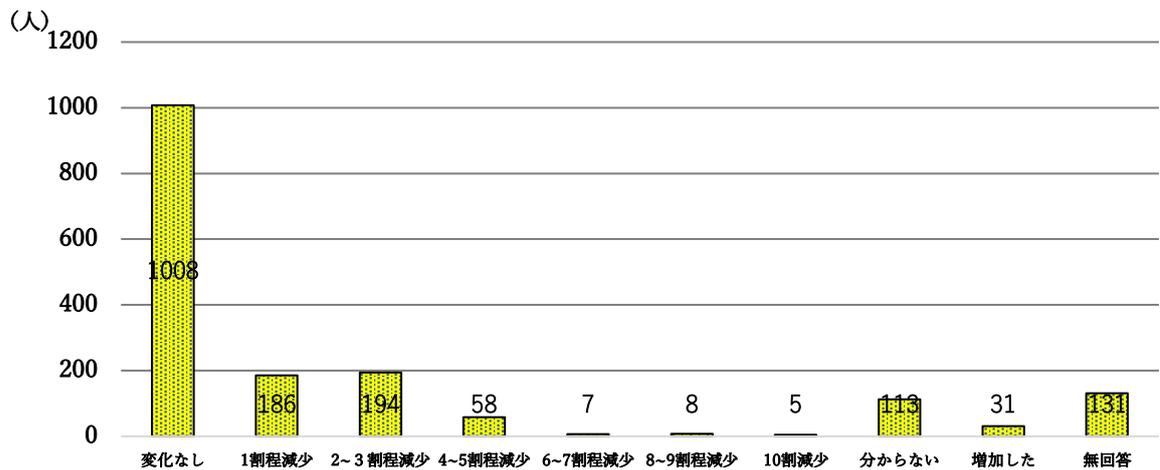


図9 収入の変化について

問 20 から問 22-1 では、就学援助費の受給状況、教育費等の状況、子どもの進学等に関する希望について質問した。(図 10)

就学援助成制度は、所得が一定以下の世帯に対し、給食費等、学校に係る費用の一部を助成する制度であるが、問 20 において「受けている」と回答した人は、全体の 2 割強であった。

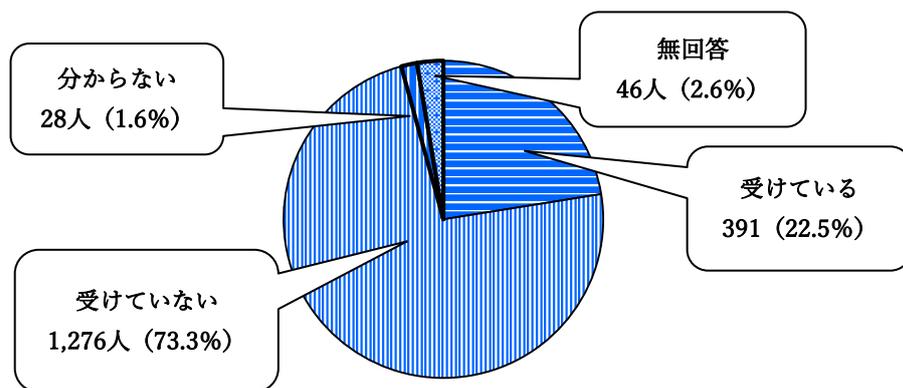


図10 就学援助費の受給状況

問 20-1 では、就学援助で支給されている額と実際にかかった額とで、差が大きいものについて質問した。(複数回答・図 11) 最も回答数が多かったのが、「学用品費」で 189 人、次いで「クラブ活動費」の 90 人であった。

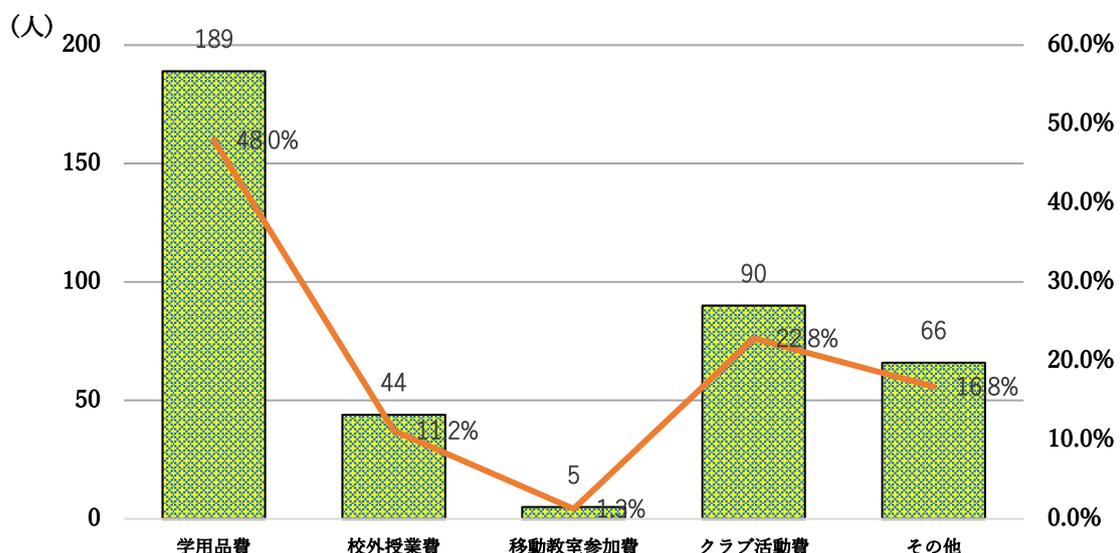
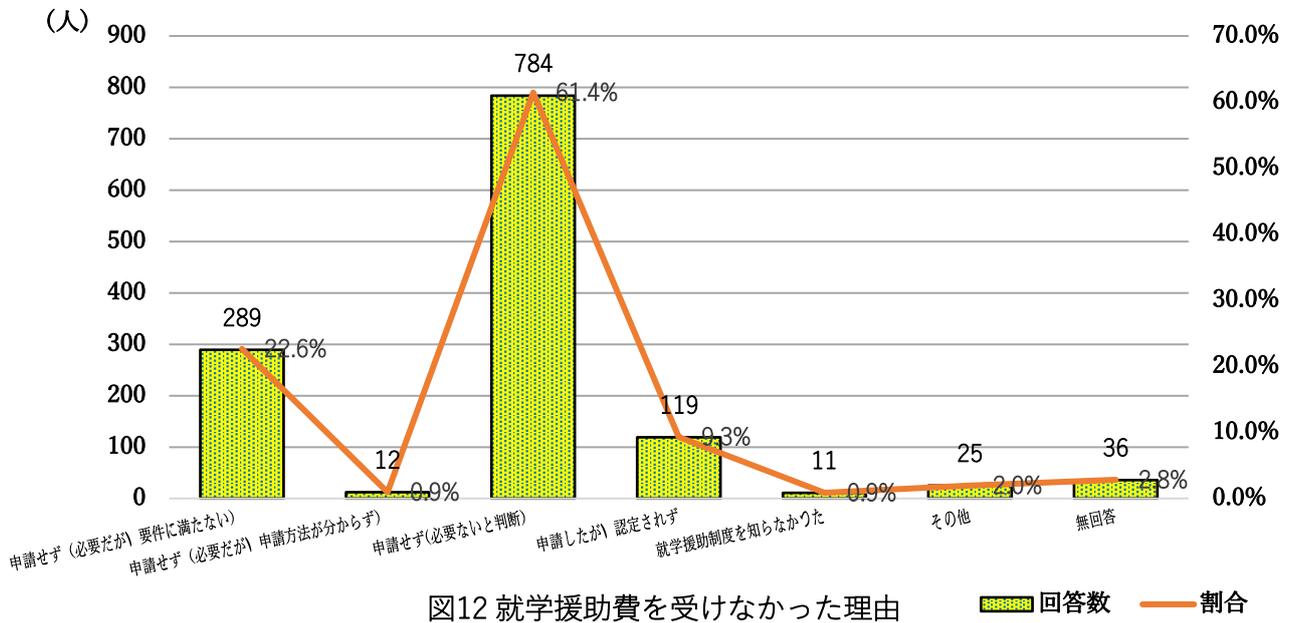
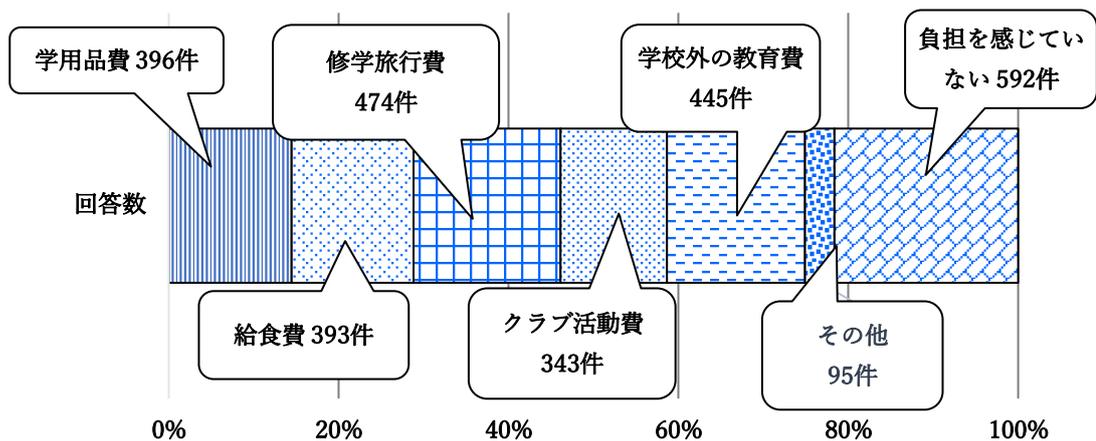


図11 援助費と差が大きい費用 (複数回答) 回答数 割合

問 20-2 では、受けていない理由を質問しているが、最も回答数が多かったのは、「申請しなかった(必要ないと判断した)」で、全体の6割を占めている。次いで、「申請しなかった(必要であるが、申請要件を満たしていなかった)」となり、2割強を占めている。(図 12)



問 21 では、子どもの教育に係る費用で、「負担が大きいと感じているもの」について質問した。教育費の中で負担の割合が最も高かつたのは「修学旅行費」の474件であった。「その他」としては、「学童クラブの利用料」、「体操着、制服(注:これらは学用品費の扱いとなる)」といった回答も見られた。(図 13)



問 22 では、子どもへの教育をどの段階まで受けさせたいかを質問したところ、図 14 のとおり結果となり、「大学またはそれ以上」が半分近くの割合を占めている。(P.9 図 14)

「短大・高専・専門学校」を含めると、7割近くの親が高校以上の学歴を希望していることが伺える。

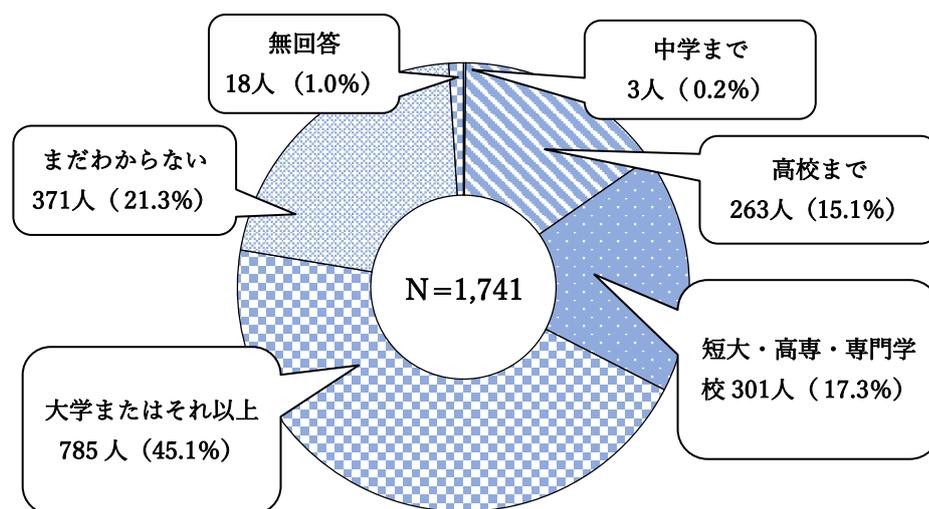


図14 親が希望する子の最終学歴

問 22-1 では、子どもの進学に伴う教育費の準備方法について質問した。

回答者の考え方に最も近い方法を2つ選択してもらうこととしていたが、1つのみの回答も多く見られた。その中で、準備方法として最も高かったものが「予め積立・貯蓄をする」と「奨学金制度の利用」であった。(表8)

○ 表8 子どもの教育費の準備方法について (件)

質問項目	回答①	回答②	計
月々の収入でやりくり	334	-	334
予め積立・貯蓄をする	536	132	668
教育ローンを組む	279	71	350
学資保険等への加入	176	296	472
奨学金制度の利用	192	529	721
親・親族からの援助	1	22	23
具体的に考えていない	158	84	242
その他	12	12	24
無回答	53	595	648

(回答①、②いずれも N=1,741)

⑤ 生活状況等について (問 23 から 28 まで)

問 23 から 28 までは、回答者の世帯における生活の状況について質問した。

問 23 では、概ね1年の間に、経済的な理由で経験したことについて複数回答形式で質問したところ、次頁図 15 のとおりとなった。回答者の6割程度は「どれにも該当せず」と回答しているが、「趣味やレジャーへの出費減」、「衣類、靴等が購入できない」を選択した回答も多くみられ、さらに深刻な事象と考えられる「ライフライン(電気・ガス・水道)の停止」、「保険料、税金等の未納等」があったという回答も見られた。

問 24 は、問 23 で「どれにも該当せず」以外の項目を1つでも選択した場合のその原因について質問したものであるが、「新型コロナウイルス感染症拡大による収入減によるもの」と回答したのは、回答者数1,741人中、114人(6.5%)となり、「それ以外の理由によるもの」

については、295人(16.9%)となった。なお、残り1,332人(76.5%)が無回答である。

なお、問24については、選択回答数が2択、また、無回答が非常に多かったため全体的な経済的困窮等の原因の考察は難しいが、コロナによる影響に加え、コロナ以前からの生活困窮についても一定数あるものと考えられる。

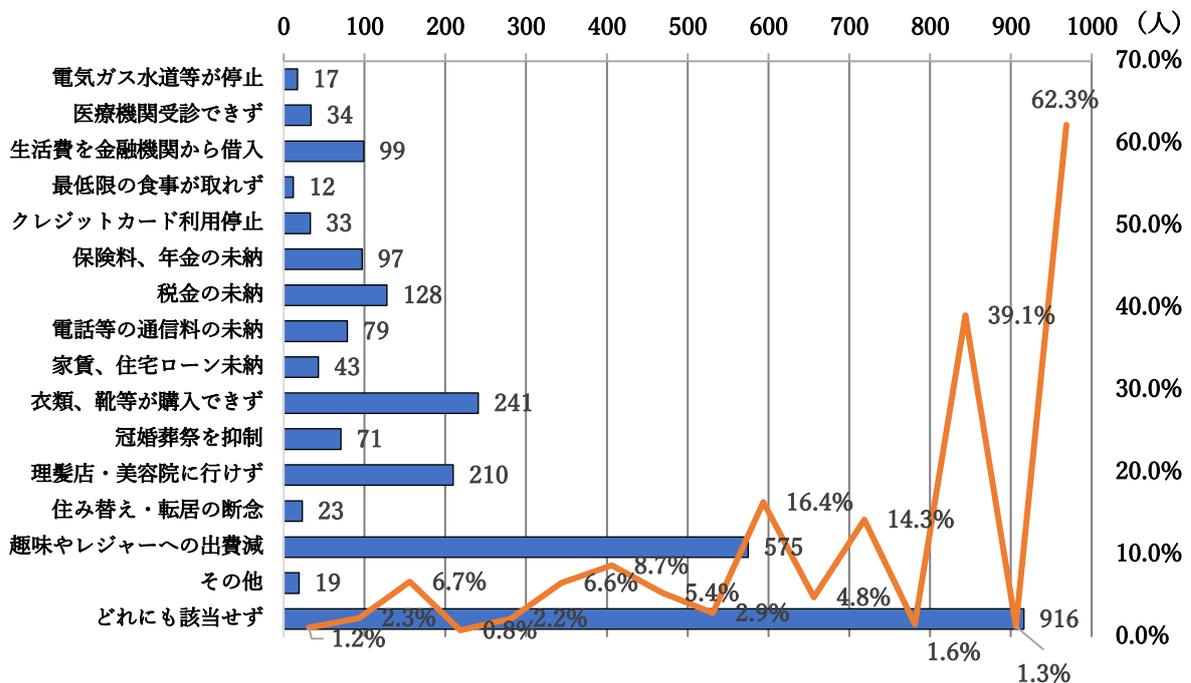


図15 経済的な理由により経験した項目(複数回答) ■ 回答数 — 比率

※表中の数字の単位：人

問25では、コロナの感染拡大に伴い、不要不急の外出等を控えるといったことによる家庭の生活状況への影響について質問した。なお、この設問については、問23において「どれにもあてはまらない」以外の項目を選択した人を対象としたものであったが、回答が非常に多かったため、単独の質問として取り扱うこととする。

傾向としては、コロナによる外出、外食控え等による影響により、「食費」、「水道光熱費」、「通信費」、「日用品費」が増加している。一方、「子どもの教材費、遊具費」については、一部増加もしているが、生活に関わる費用と比べると、現状維持の傾向にある。娯楽費については、増加より減少傾向が上回っており、節約の傾向も併せて伺えた。(P.11 図16)

問26については、概ねこの1年の間に子どもに係る費用において、経済的な理由により断念した項目を複数選択する質問となっている。

半数以上の人「どれにもあてはまらない」と回答している一方で、「家族旅行(日帰りを含む)ができなかった」や「子どものための服や靴が買えなかった」、「習い事に通わせることができなかった」といった回答も多く見られた。また、少数ではあるものの、「給食費、教材費の支払いができなかった」、「医療機関へ受診できなかった」といった深刻な回答もあった。(P.11 図17)

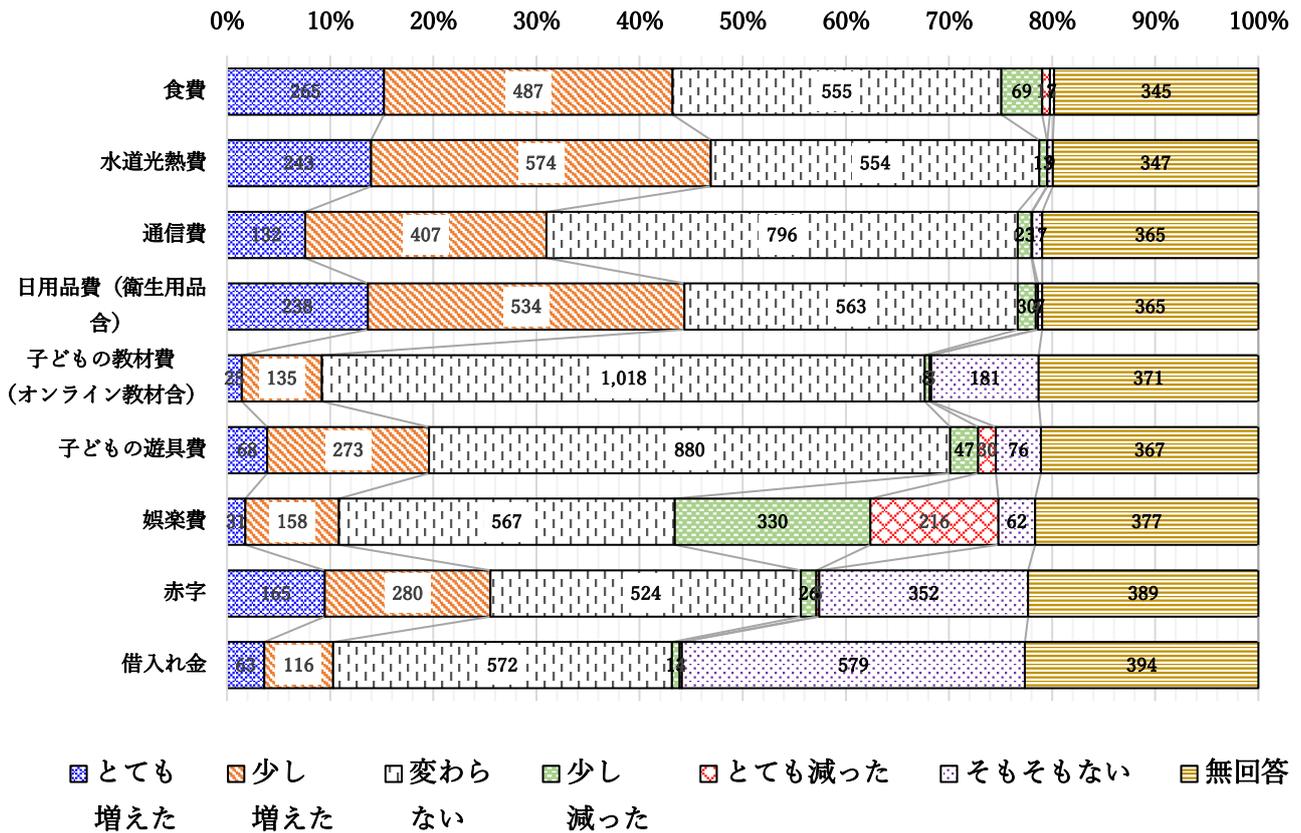


図16 家計における各費用の増減

※各項目N=1,471人

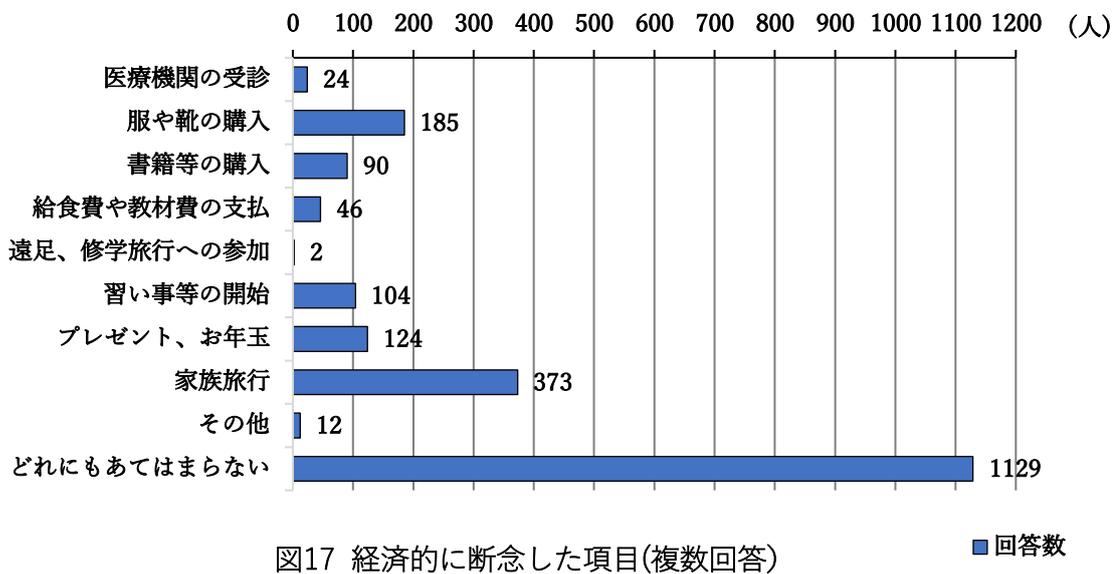


図17 経済的に断念した項目(複数回答)

■ 回答数

問 27、27-1、28 については、子どもに係る周囲との関係、地域との関わり等について質問している。

問 27 では、日頃から子どもを見てくれる親族・知人等の有無について質問（複数回答）したところ、回答者の半数以上が「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」と回答している。

また、日常的には難しいが、「緊急時や用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した人も半数近くに上った。一方で、「知人・友人」の場合は、日常的もしくは緊急時や外出時に見てもらえる人は少数に留まっており、さらに、子どもを見てくれる親族・知人が「いずれもいない」と回答した人は回答者全体の1割を超える結果となった。(P. 12 図 18)

問 27-1 では、回答者のご近所づきあいの状況について質問している。(図 19)

回答者の 2 割近くが「いつでも気軽に頼んだり、相談できる人がいる」、「いざというときは頼んだり、相談できる人がいる」を選んで回答しているが、「顔をあわせれば雑談などをする人がいる」、「挨拶する程度のつきあいの人がいる」が最も多く、2つの回答が全体の 7 割を超える結果となった。また、「顔を知っているが話したことはない」、「ほとんど顔も知らない」についても一定数の回答があった。

問 28 については、子育てをする上で、気軽に相談できる人が、また相談できる場所の有無について質問している。(表 10)

気軽に相談できる人、場所が「いる/ある」と回答した人は全体の 8 割以上に上った。

「いない/ない」については 1 割程度となっている。

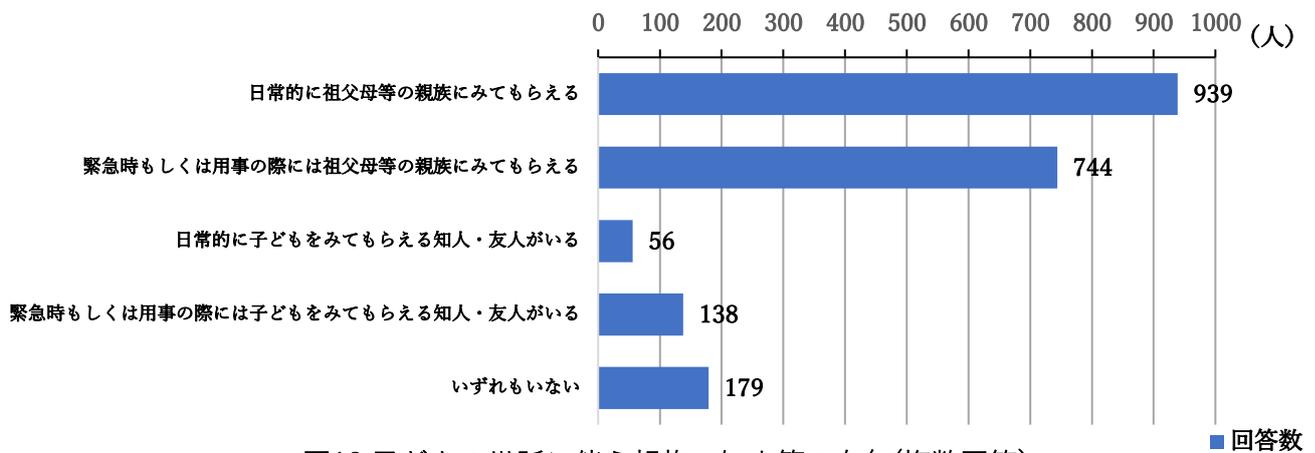


図18 子どもの世話に伴う親族・知人等の有無(複数回答)

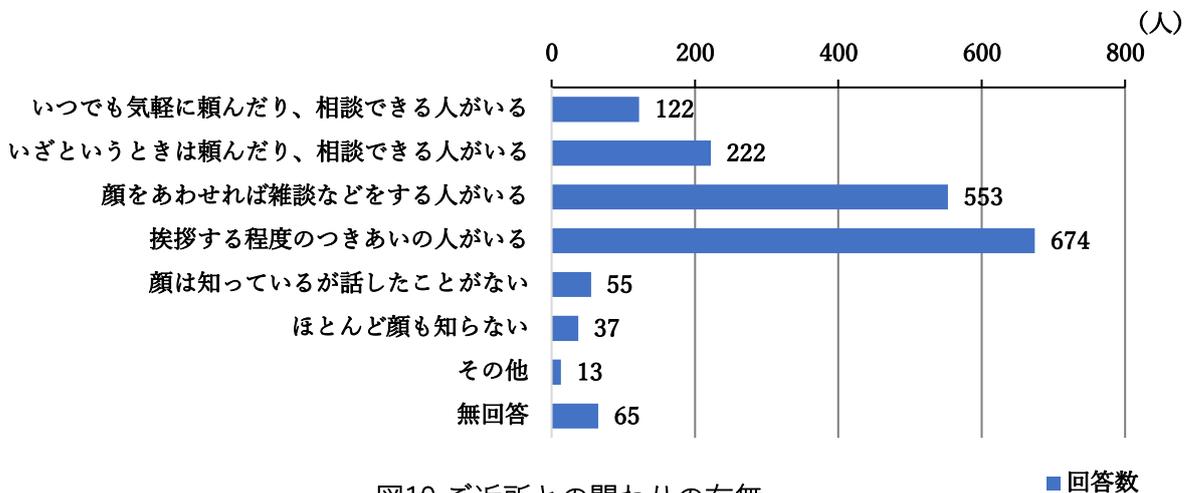


図19 ご近所との関わりの有無

○表 10 気軽に相談できる人、場所の有無について (人)

項目	回答数	比率
いる/ある	1,472	84.6%
いない/ない	202	11.6%
無回答	67	3.8%
合計	1,741	100.0%

⑥ 子育てに関する公的な支援について（問 29 から 31 まで）

問 29 は、子育て情報の入手方法等に関する質問（図 20）であるが、最も多かったのが、「近所の人、知人、友人」で 1,025 人が選択回答しており、次いで「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット等」で 833 人、「親や家庭、親せき」が 759 人となっている。ほとんどの人が子育てに関する情報を様々な方法で入手していることが伺える一方で、「情報の入手先がない、入手手段がわからない」と少数（合計 85 人）ではあるものの回答があった。

問 30 は、公的機関への相談に関する質問（P. 14 図 21）となり、公的機関等の中で「相談する」、「場合によっては相談する」の割合が高いのは、「学校、学童クラブの先生、スクールカウンセラーなど」となった。

それ以外の機関、団体等については、「相談する」、「場合によっては相談する」よりも「相談しない」が上回る結果を占めた。（注：市役所窓口については、「場合によっては相談する」と「相談しない」がほぼ同数）

問 30-1 は、問 30 の項目全てで「相談しない」を選択した回答者に理由を質問している。（P. 14 図 22）

回答で最も多かったのが、「身近に相談できる人がいる」となった。他に多かった回答として、「相談しても解決につながらない」、「知らない人に相談するのは抵抗がある」が続いた。「その他」の回答では、「相談しづらいイメージがある」、「以前相談して、情報漏洩の経験あり」という回答も寄せられた。

問 31 では、公的な各種子育て支援に関する利用の有無について質問した。（P. 14 表 11）

最も利用されているのは「放課後児童クラブ」で、全回答者のうち、半数以上が「利用したことがある」としている。

次いで、「地域子育て支援センター・子育て広場」の利用者 790 人となるが、いずれの支援制度についても「利用したいと思わない」、「制度そのものを全く知らなかった」と回答している人が一定数あった。今回のアンケートを契機とし、課題等を検討する必要がある。

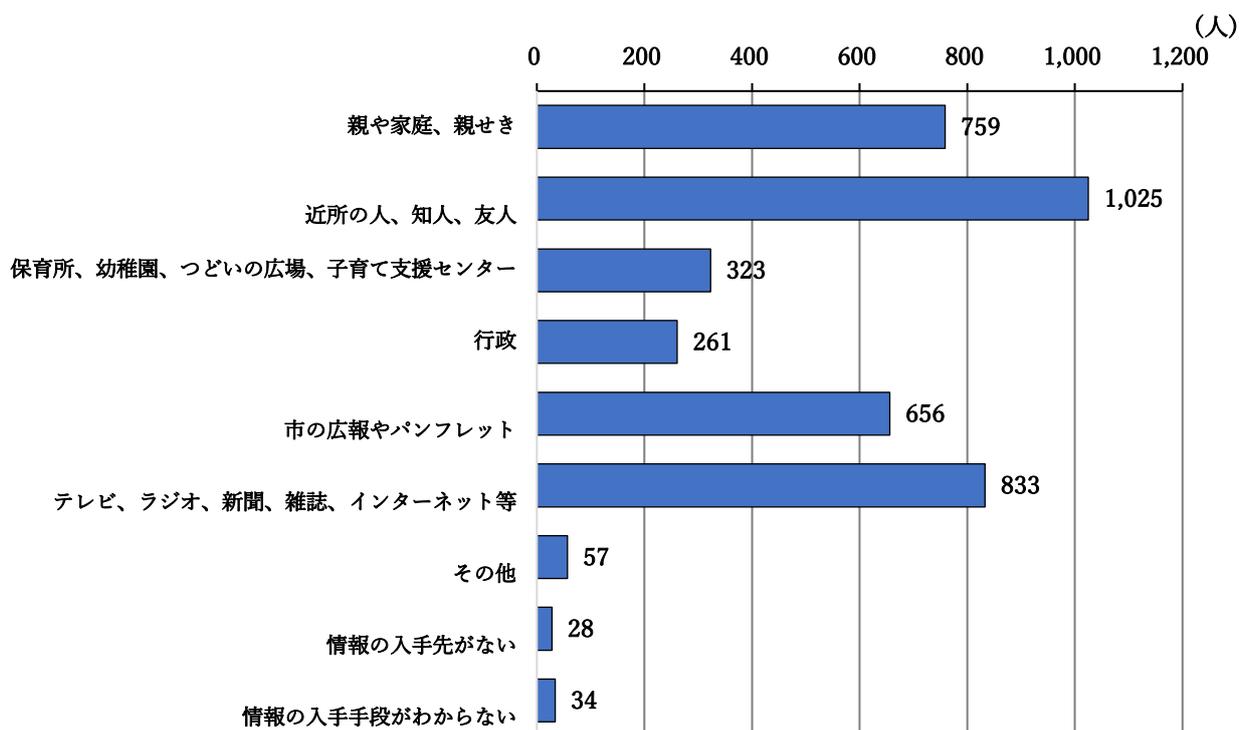
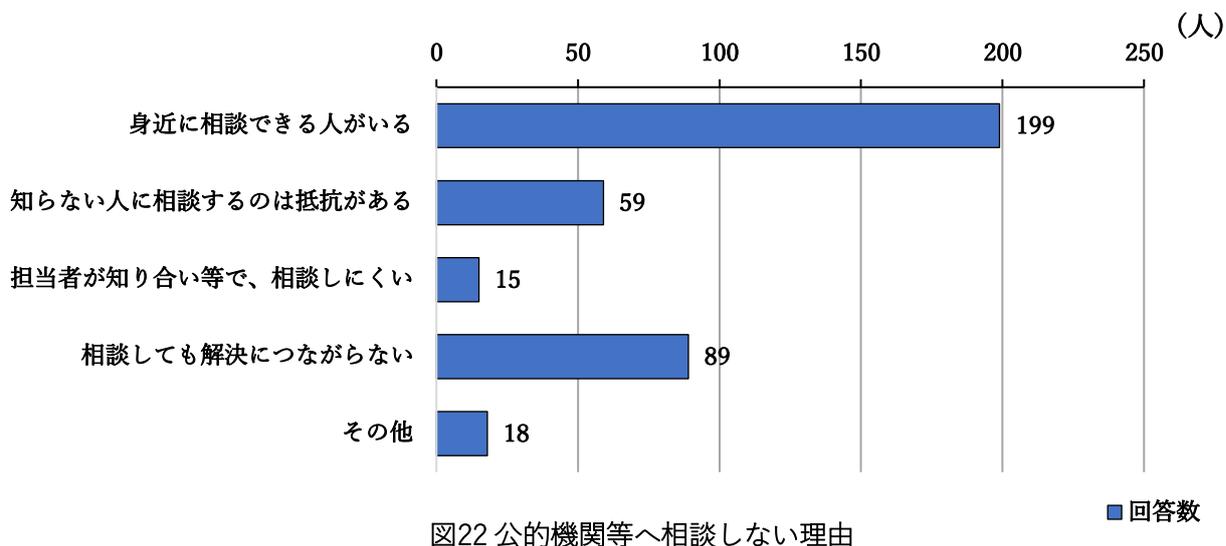
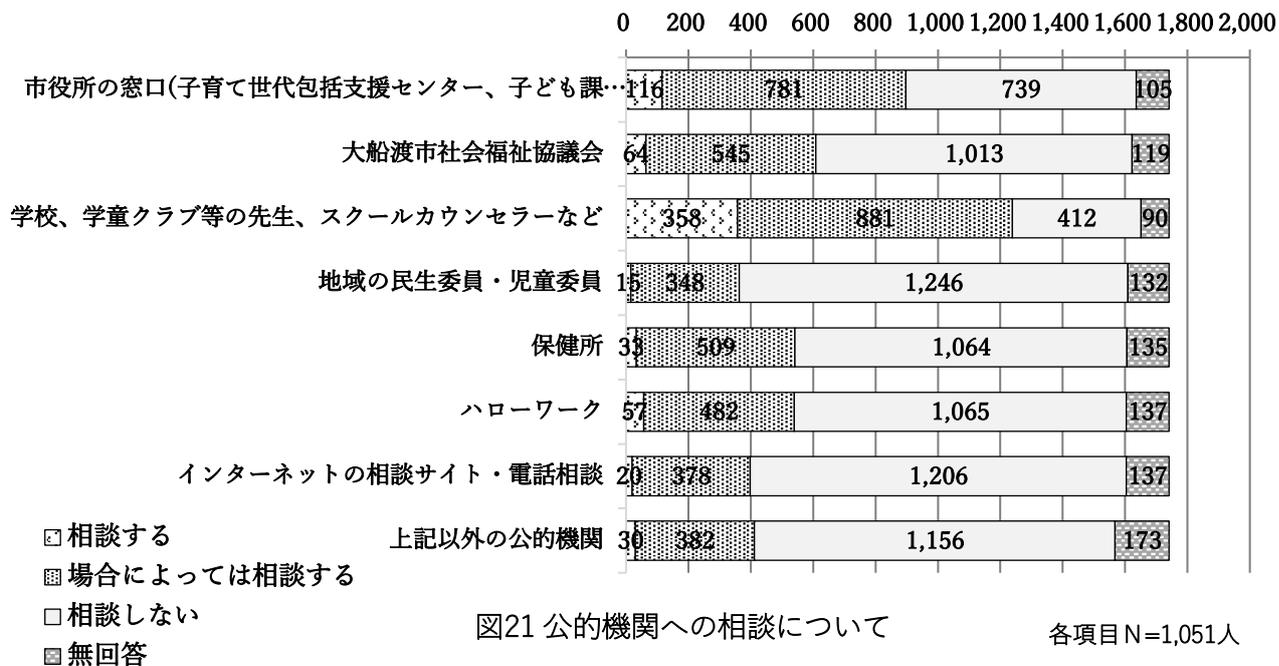


図20 子育て情報の入手方法について（複数回答）



○表 11 各種支援制度の利用の有無について (各項目 N=1,051人)

項目	利用したことがある	利用したいと思わない	利用したいが、条件を満たしていない	利用したいが時間や制度等が使いにくい	利用の仕方が分からない	制度等を全く知らない	無回答
地域子育て支援センター・子育て広場	790	446	41	53	71	188	152
子育て短期支援事業(ショートステイ)	8	780	55	36	85	582	195
ファミリーサポートセンター	138	750	74	69	99	427	184
子ども食堂	33	739	95	46	140	504	184
フードバンクによる食糧支援	111	741	91	23	120	483	172
放課後児童クラブ	913	473	96	38	27	52	142

(2) 子どもへの質問項目及び結果について

① 子ども自身のことについて (問1から10まで)

問1、問2では、回答者の学年、性別を質問している。(表1)

○ 表1 学年及び性別について

(人)

項目	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	無回答	合計
男子	113	97	100	90	106	4	510
女子	98	110	98	104	104	8	522
答えたくない・分からない	1	1	1	0	4	0	7
無回答	3	0	1	0	1	7	12
計	215	208	200	194	215	19	1,051

問3では、回答者が現在一緒に居住する家族の構成について質問した。(表2)

問4では、回答者の健康状態について質問した。(図1)

○ 表2 家族の構成について (人)

項目	一緒に住んでいる	無回答
母	985	66
父	861	190
祖母	456	595
祖父	346	705
兄・姉	434	617
弟・妹	475	576
その他	92	959

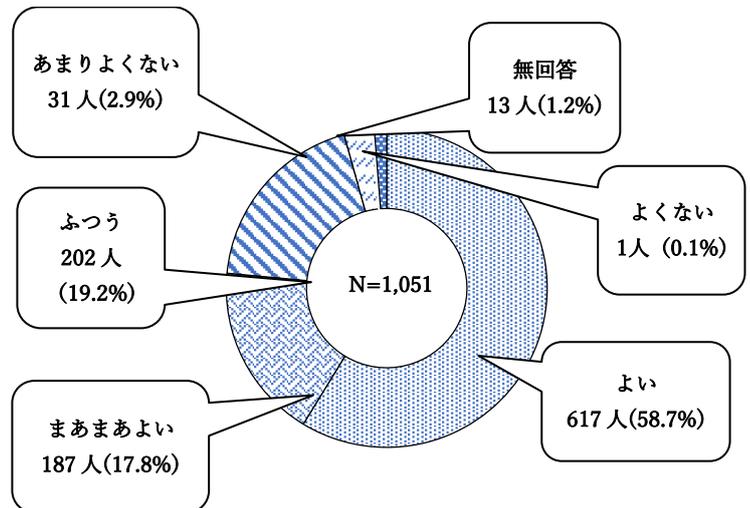


図1 本人の健康状態について

問5では、回答者の、心や体で気になっていることについて質問し、さらに、「ある」を選択した回答者に対し、問6で具体的な内容等を質問している。(表3)

問6での回答については、回答者が各々様々な「気になること」を記入しているが、概ね以下の内容に分類することができた。

○ 表3 気になることについて (人)

項目	回答数
自分の体や気持ちで気になることが「ある」	124
気になることは「ない」	911
無回答	16

N=1,051人

- 学校、部活、友人、家庭における人間関係の悩み及びそれに伴う心身の不調：全体の約6割
- 自身の容姿、能力に対する悩み：全体の約2割
- 自身の体調不良（腰痛、頭痛、不眠、腹痛等）：全体の約2割

問7では、回答者に悩みがあったときに、だれに相談するかを質問している。(P.15 図2) 複数回答となり、最も多かった回答は「学校の友人」となった。次いで「保護者・親・兄弟姉妹」という結果になった。

問8は、問7で「誰にも相談しない」を選択した回答者に、その理由を質問している。(図3) 最も多かった理由は、「誰かに相談するほどの悩みではないから」であったが、次いで、「相談しても悩みが解決できると思わないから」、「相談した相手を困らせたくないから」という気になる回答も寄せられている。

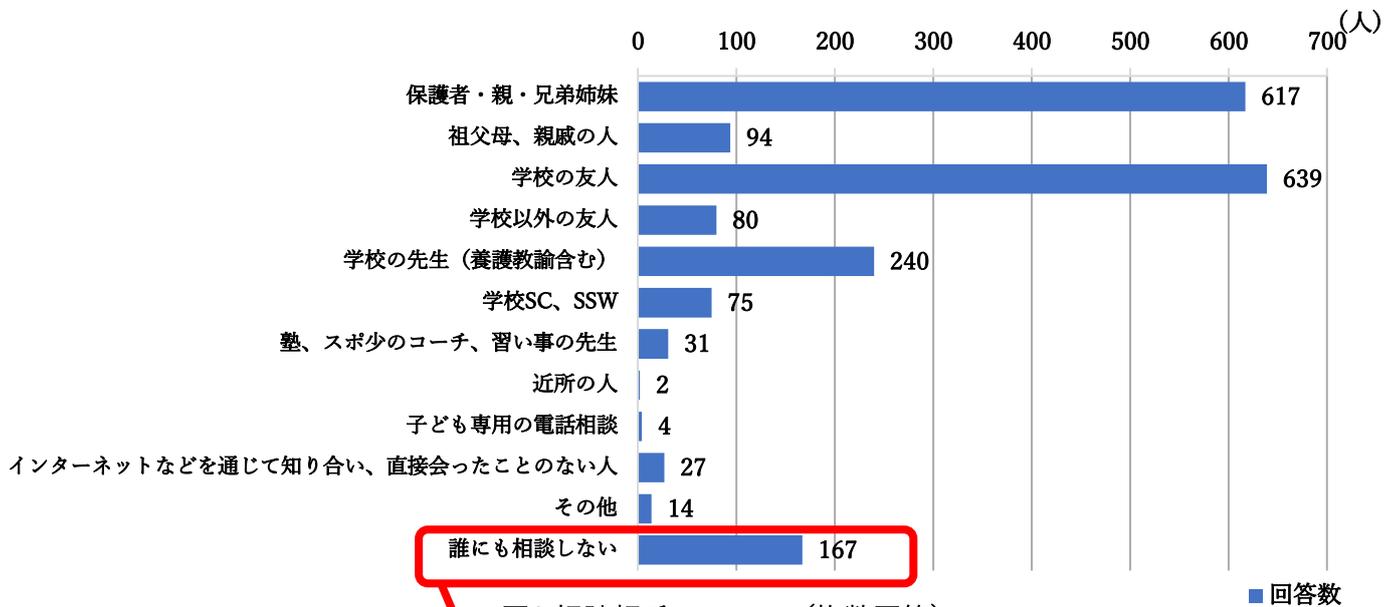


図2 相談相手について（複数回答）

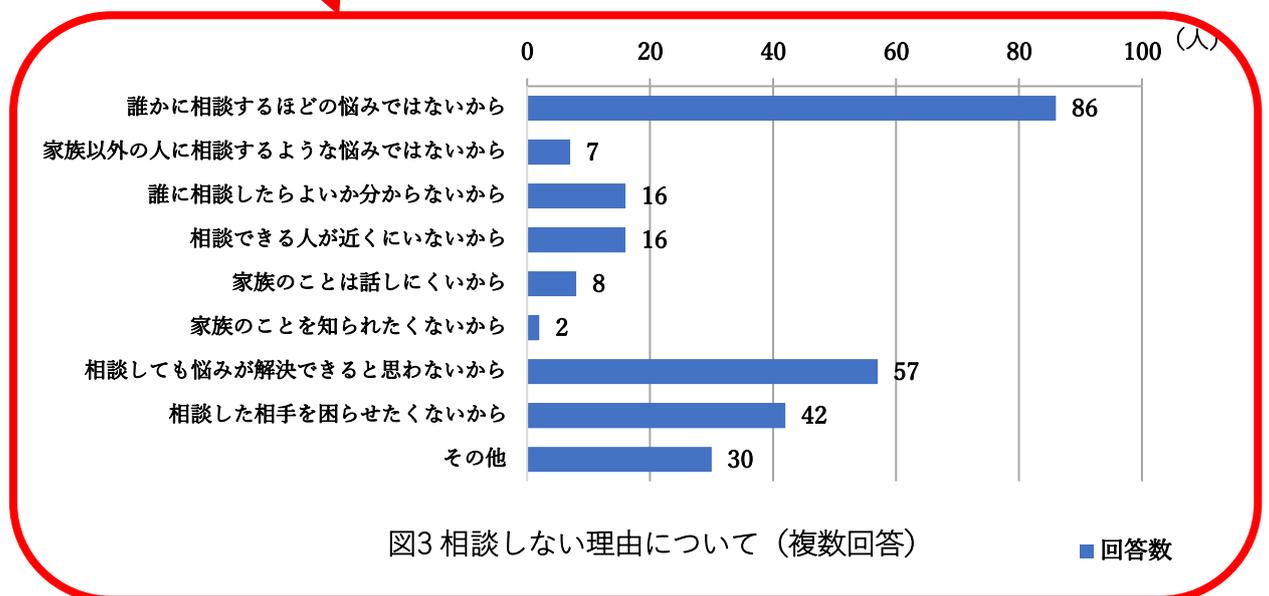


図3 相談しない理由について（複数回答）

問9、10は、回答者の自己肯定感、幸福度に関する質問（P.17 図4、5）となる。

問9では、概ね「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」の回答が多く見られるが、「不安に感じることはない」、「自分のことが好きだ」の項目については、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」がやや多い傾向となった。

また、問10については回答者本人に幸福度について質問したものであるが、「とてもしあわせだと思う」、「しあわせだと思う」の回答が9割近くとなった。

しかしながら、問9の傾向と同じく、「あまり幸せとは思わない」、「幸せだと思わない」と回答している児童・生徒も一定数いることから、他の設問と照らし合わせ、傾向とその対応策について検討する必要がある。

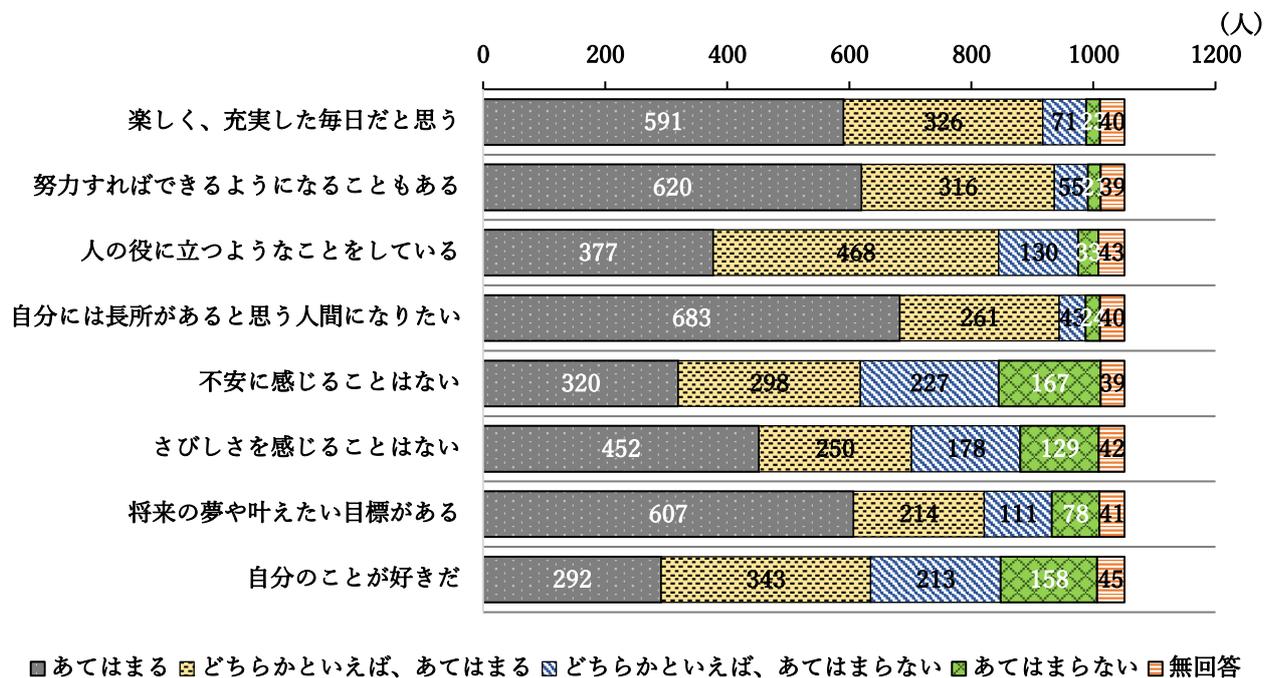


図4 自分自身のことについて

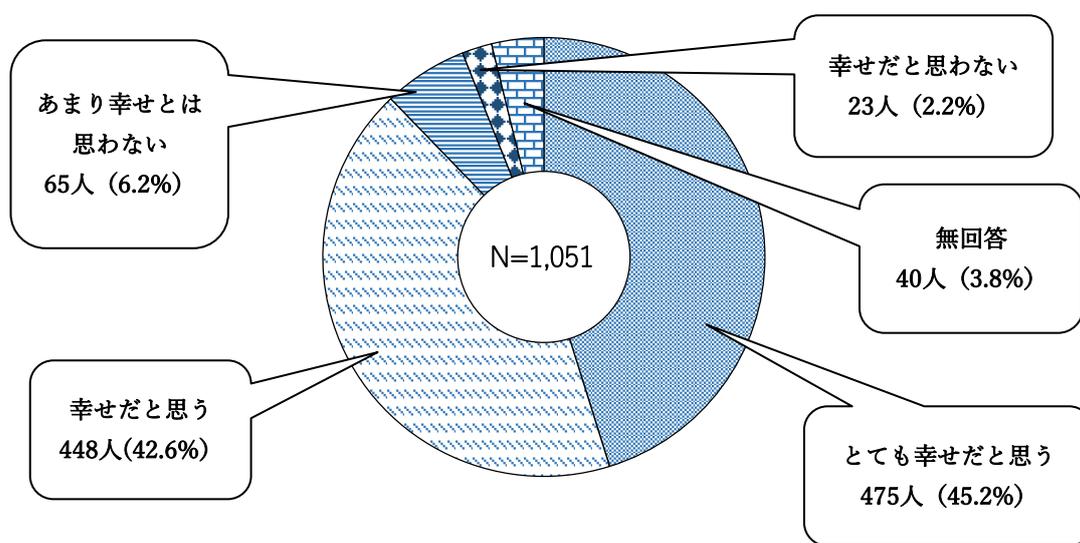


図5 幸福度について

② 学校生活や勉強のことについて (問11から19まで)

問11、12では、学校の出欠及び遅刻、早退状況について質問している。(P.18 表4)

出欠状況と遅刻・早退の関係性については、データからは伺えなかったが、「よく欠席する」については、後述となる「ヤングケアラー」との関わり等を把握する必要がある。

問13では、学校生活においてあてはまる項目(P.18 図6)を、問14では、学校の授業に対する理解度(P.19 図7)について質問している。問15では、勉強で分からない部分が

あった時、誰に教えてもらうか(P19. 図8)、また、問16では学校、習い事における困り事(P19. 図9)について質問している。

○ 表4 出欠及び遅刻・早退の状況について

(各項目 N=1,051人)

出欠の状況	回答数	うち遅刻・早退の状況	回答数
ほとんど欠席しない	883	ほとんどしない	817
		たまにする(1か月に1~2回)	49
		よくする(1週間に1回程度)	11
		無回答	6
たまに欠席する (1か月に1~2回)	92	ほとんどしない	46
		たまにする(1か月に1~2回)	38
		よくする(1週間に1回程度)	5
		無回答	3
よく欠席する (1週間に1回程度)	36	ほとんどしない	20
		たまにする(1か月に1~2回)	5
		よくする(1週間に1回程度)	8
		無回答	3
無回答	40	ほとんどしない	28
		たまにする(1か月に1~2回)	3
		よくする(1週間に1回程度)	1
		無回答	8

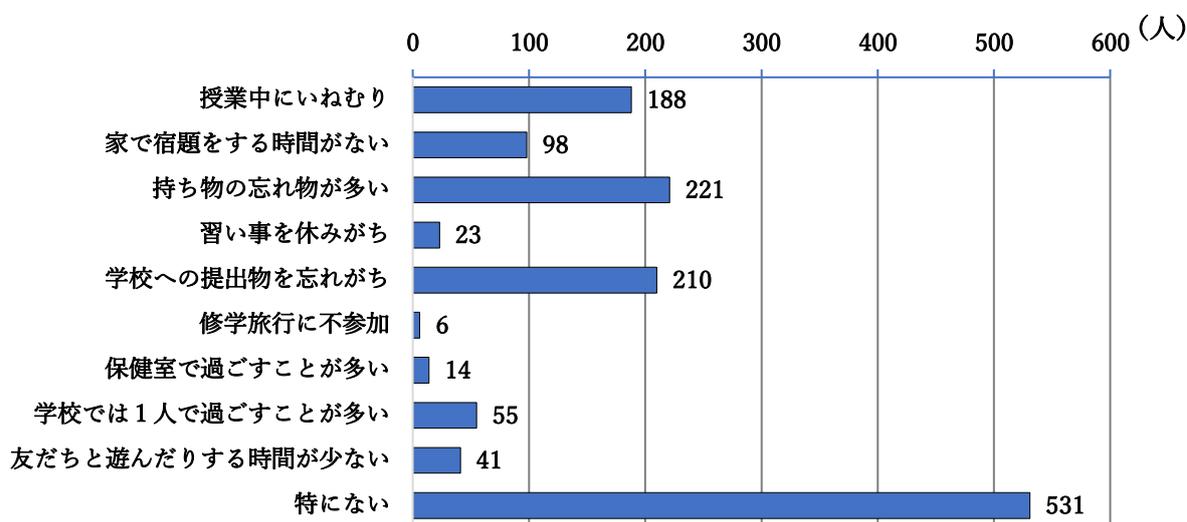


図6 学校生活で自分があてはまること (複数回答)

■ 回答数

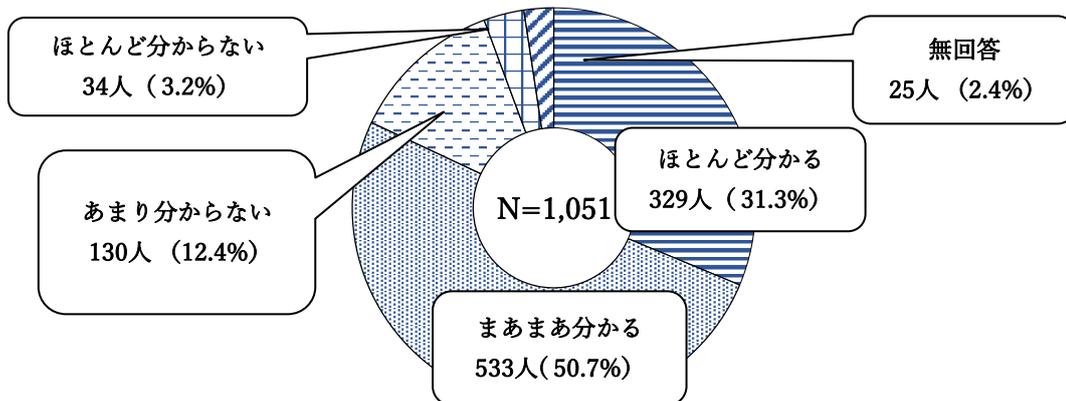


図7 勉強の理解度について

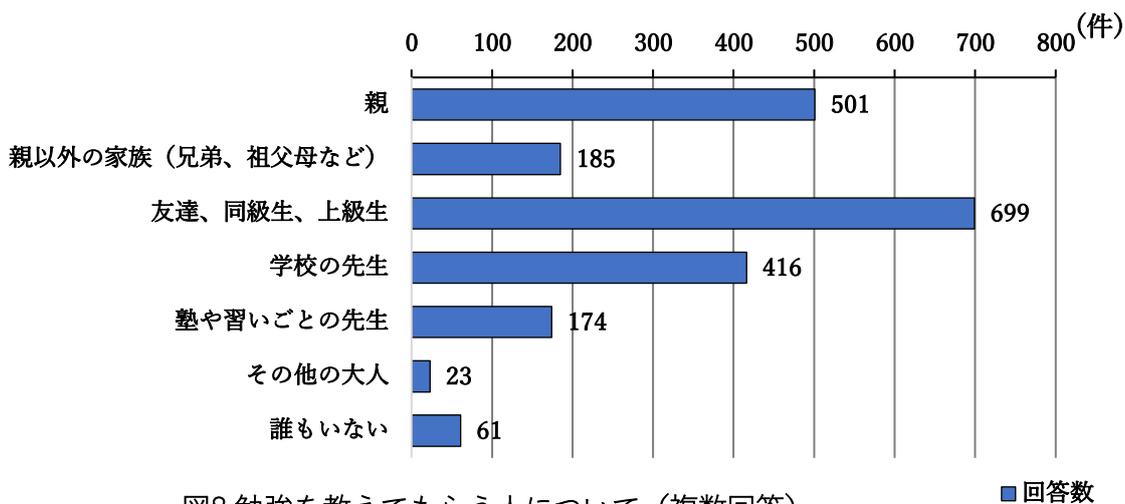


図8 勉強を教えてもらう人について (複数回答)

問 17 では、必要な文房具などが購入可能かどうかを質問している。(P. 21 図 10)

「購入できなかったことは」まったくない、「ほとんどない」が大半ではあったが、「ときどきある」、「よくある」も一定数あった。今回の調査においては、その理由等に関する質問はしていないが、「よくある」の回答については、経済的要因も原因の一つと推測される。

問 18、19 では、回答者及びその親が希望する最終進学先について質問している。(P. 20 表 6) これについては、例えば、親が「大学以上」を希望している場合、子ども「大学以上」を希望すると言ったように、親子間の意見が一致する傾向が数値的に伺えた。ここでも、経済的状況等は関係していると考えられることから、今後、親の方のアンケートと照らし合わせ、考察する必要がある。

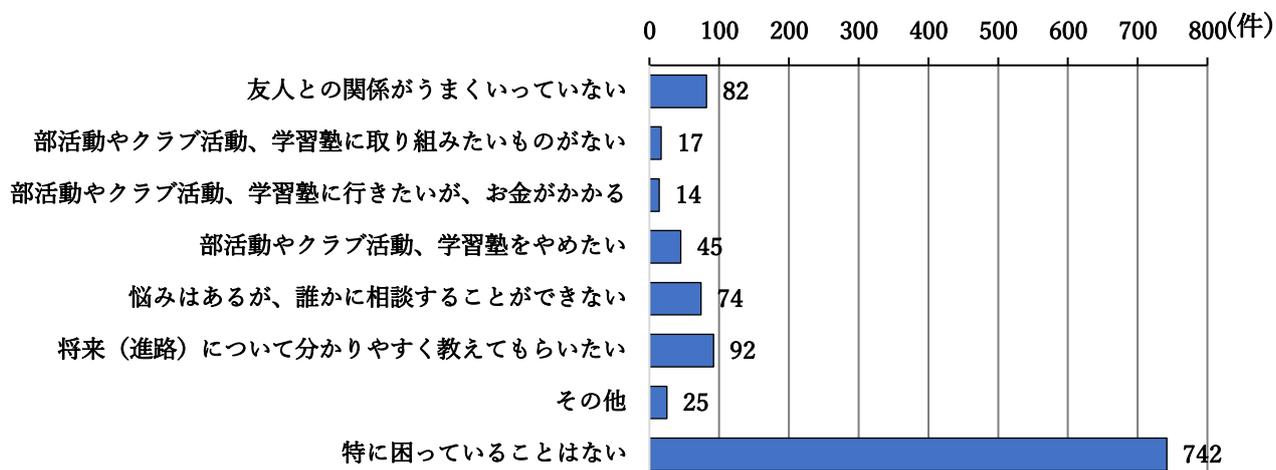


図9 学校、習い事等で困っていること (複数回答)

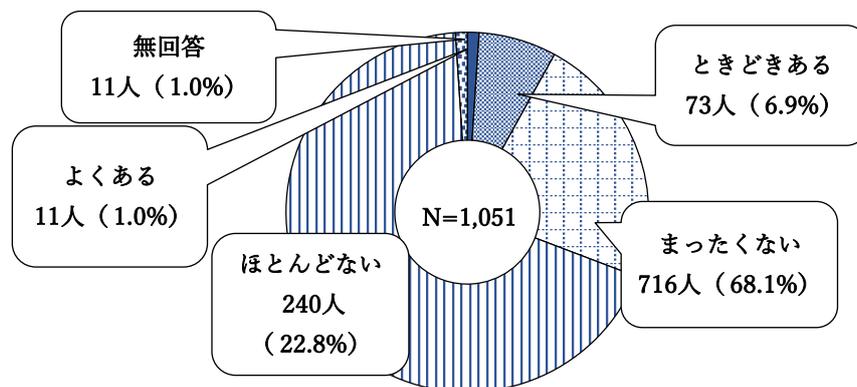


図10 文房具用品等の購入について

○表6 子及び親が希望する最終進学について

(各項目 N=1,051 人)

子が希望する最終進学先	回答数	親が（子に）希望する最終進学先	回答数
中学まで	6	中学まで	0
		高校まで	4
		短期大学・高専・専門学校	2
		大学またはそれ以上	0
		まだ決めていない	0
		無回答	0
高校まで	177	中学まで	0
		高校まで	117
		短期大学・高専・専門学校	15
		大学またはそれ以上	18
		まだ決めていない	16
		無回答	11
短期大学・高専・専門学校	211	中学まで	0
		高校まで	27
		短期大学・高専・専門学校	121
		大学またはそれ以上	34
		まだ決めていない	23
		無回答	6
大学またはそれ以上	340	中学まで	2
		高校まで	11
		短期大学・高専・専門学校	11
		大学またはそれ以上	290
		まだ決めていない	20
		無回答	6
まだ決めていない	301	中学まで	0
		高校まで	54
		短期大学・高専・専門学校	42
		大学またはそれ以上	74
		まだ決めていない	119
		無回答	12
無回答	16	中学まで	0
		高校まで	2
		短期大学・高専・専門学校	0
		大学またはそれ以上	0
		まだ決めていない	0
		無回答	14

③ 子どもの生活、食事の状況について（問 20 から 25 まで）

問 20 から 25 までは、子どもの家庭等における生活状況、生活環境に関する質問をした。

問 20 では、朝食の摂食状況について質問（図 11）しており、問 21 では、問 20 で「毎日食べる」以外を選択回答した人への質問（図 12）となる。

朝食を「毎日食べない」理由についてであるが、「食べる時間がない」、「朝ごはんを食べるより寝ていたい」という回答がほぼ同程度となった。

問 22 では、休日の昼食の摂食状況について質問（P. 22 図 13）している。

概ね「食べる」と回答しているが、「食べない」の回答も一定数見られた。

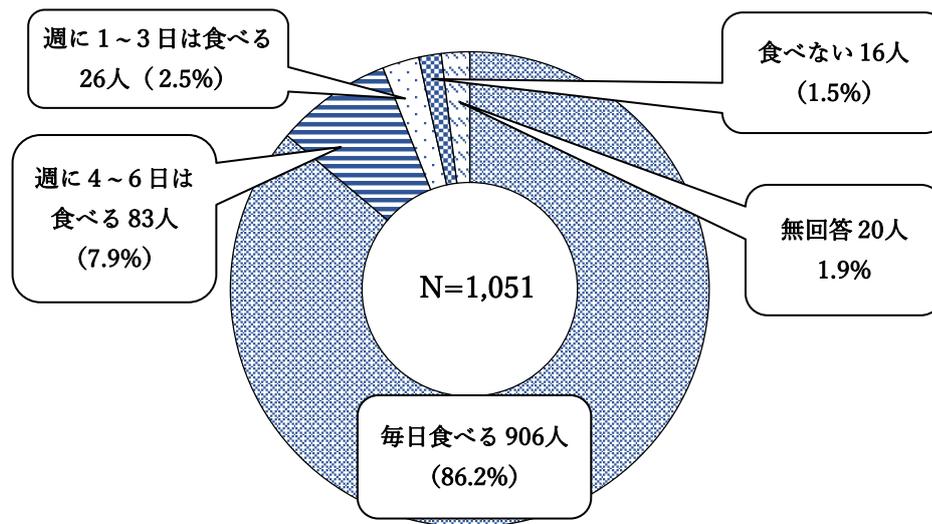


図11 朝食の摂食状況について

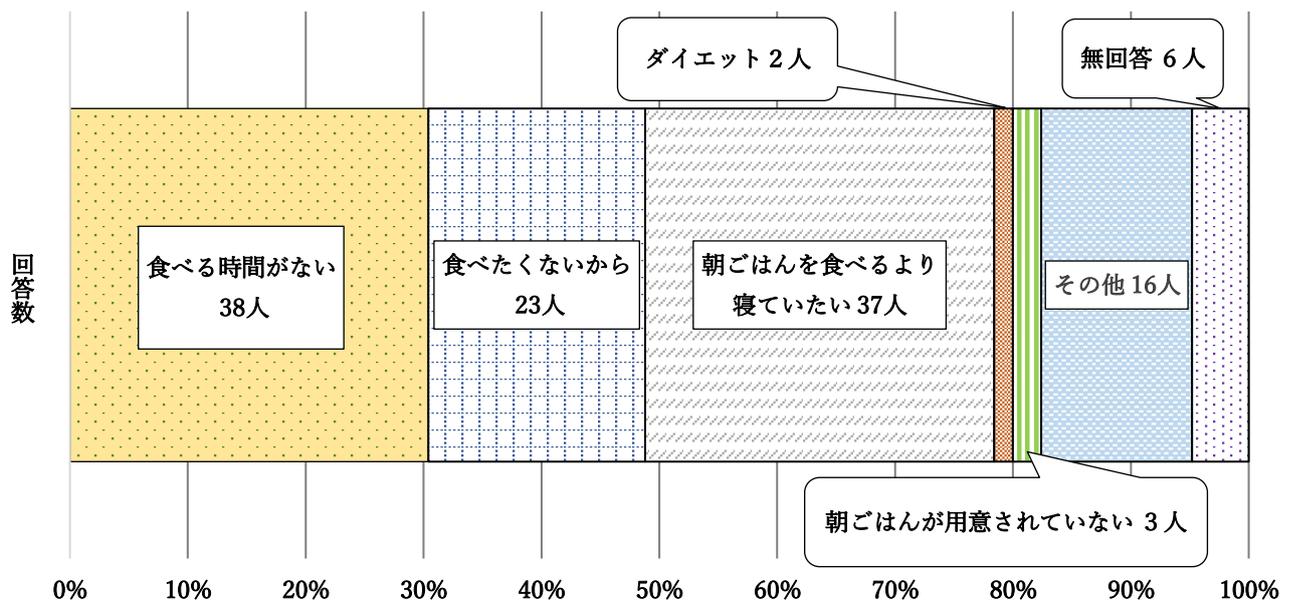


図12 朝食を毎日食べない理由について

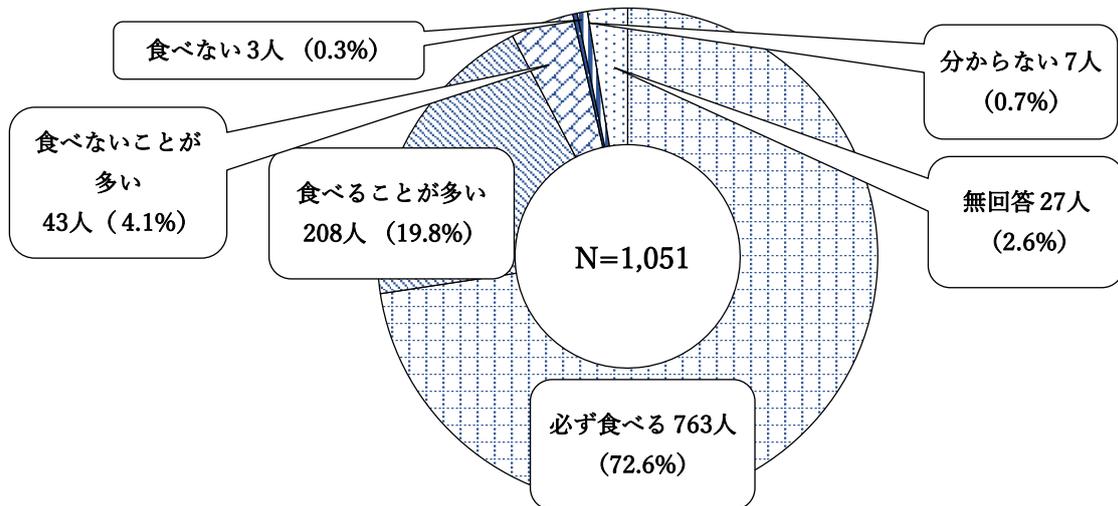


図13 休日の昼食の摂食状況について

問 23 では、平日及び休日の就寝・起床時間を質問している。(図 14)

概ね夜は、午後 10 時から 11 時頃までに就寝し、朝は午前 6 時から 7 時までに起床する傾向が多く見られた。

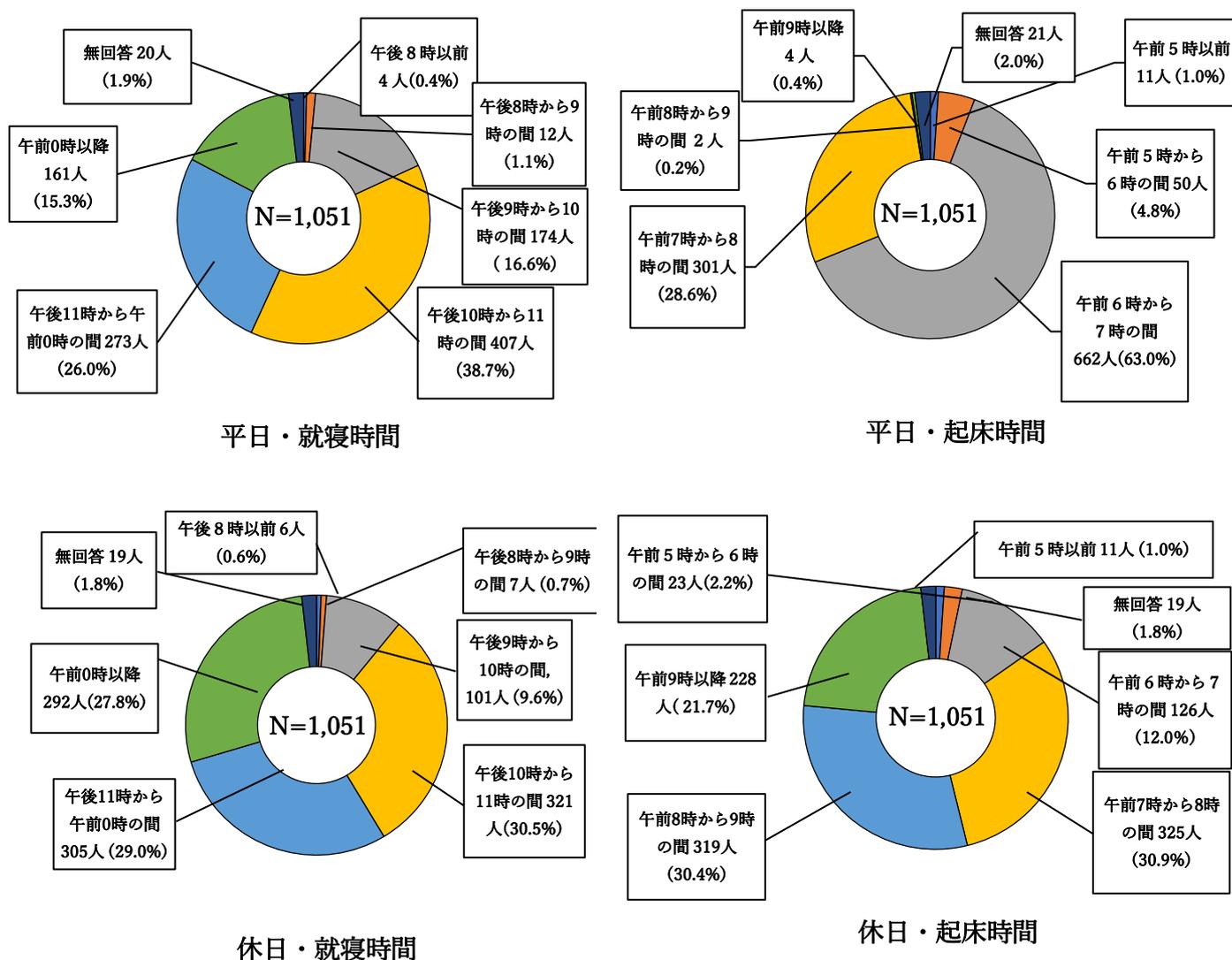


図 14 就寝時間について

問 24 では、自分が使うことができるものについて質問している。(図 15)

概ね、「ある(既に持っている)」と回答されているが、「インターネットにつながるパソコンがある」、「自分専用の携帯電話・スマホ」、「友達と遊びに行くときのおこづかい」については、「ほしい」の回答がやや多い傾向となった。

問 25 では、家以外の場所で利用してみたい場所について質問している。(表 7)

この質問については、「利用したくない」以外はいずれの項目も同程度の回答数となっている。

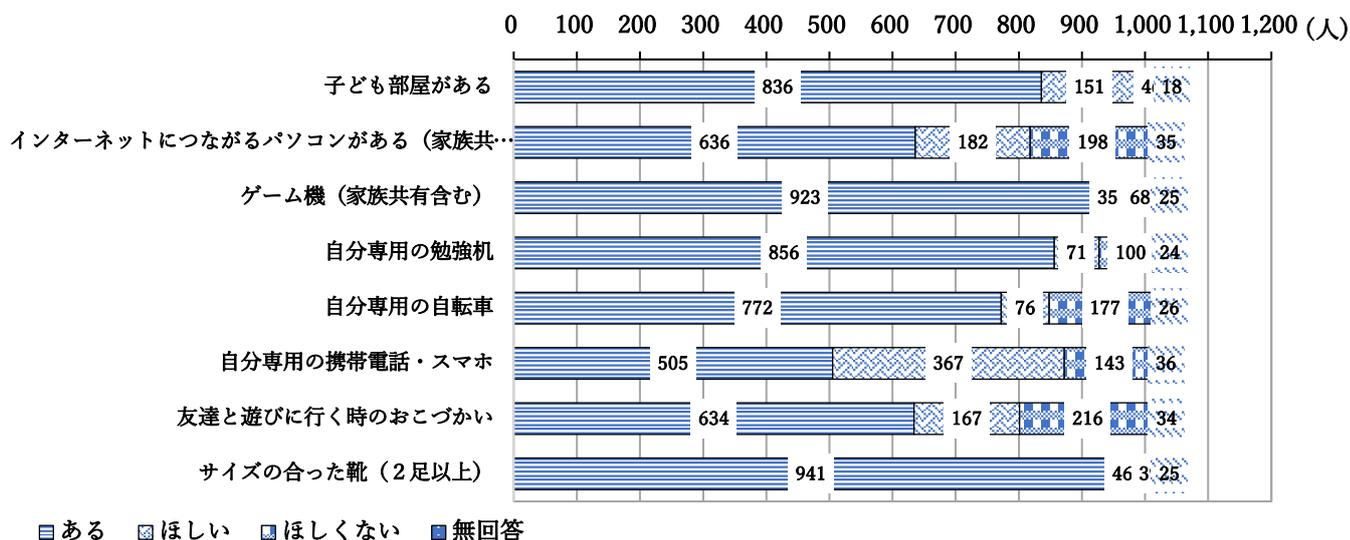


図15 自分が使用できる物・欲しい物について

○ 表 7 利用してみたい場所について

(各項目 N=1,051 人)

選択項目	利用してみたい	どちらとも いえない	利用したくない	利用する必要はない	無回答
「家以外で」平日の放課後に夜までいることができる場所	364	213	69	383	22
「家以外で」休日に夜までいることができる場所	370	217	71	370	23
家の人がいないうき、「家以外で」夕ご飯をみんなで食べることができる場所	369	221	77	360	24
家で勉強ができないとき、「家以外で」勉強ができる場所	484	203	55	283	26
「家以外で」大人などが、無料で勉強を教えてくれる場所	347	248	119	314	23
「学校や家以外で」あなたの話を聞いてくれる人がいる場所	262	277	94	395	23

④ 「ヤングケアラー」の状況について(問 26 から 32 まで)

問 26 から 32 までは、「ヤングケアラー」に関する質問となっている。

「ヤングケアラー」とは、法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている児童を指す。

問 26 では、回答者が実際にお世話をしているかどうかを質問している。(P. 24 表 8)

「お世話をしている」と回答した人は、全体の 2 割弱程度を占める結果となった。

○ 表8 お世話をする家族の有無

(N=1,051人)

お世話をしている	お世話をしていない	無回答
172 (16.4%)	836 (79.5%)	43 (4.1%)

問27では、お世話をしている家族が誰かを質問している。(複数回答)

最も回答数が多かったのは、「弟・妹」となった。(表9)

「その他」については、ペットのお世話等、ヤングケアラー等に幸い該当しない回答がほとんどであった。(1件のみ「いっこ」記載あり)

問28では、そのお世話に関する内容について質問(図16)しているが、兄弟姉妹のお世話が、次いで、「家事(食事の用意やそうじ、洗たく)」が続いた。

○表9 回答者がお世話をしている家族(複数回答) (件)

項目	回答数	比率
お母さん	68	39.5%
お父さん	26	15.1%
おばあさん	33	19.2%
おじいさん	9	5.2%
兄・姉	10	5.8%
弟・妹	92	53.5%
その他	7	4.1%

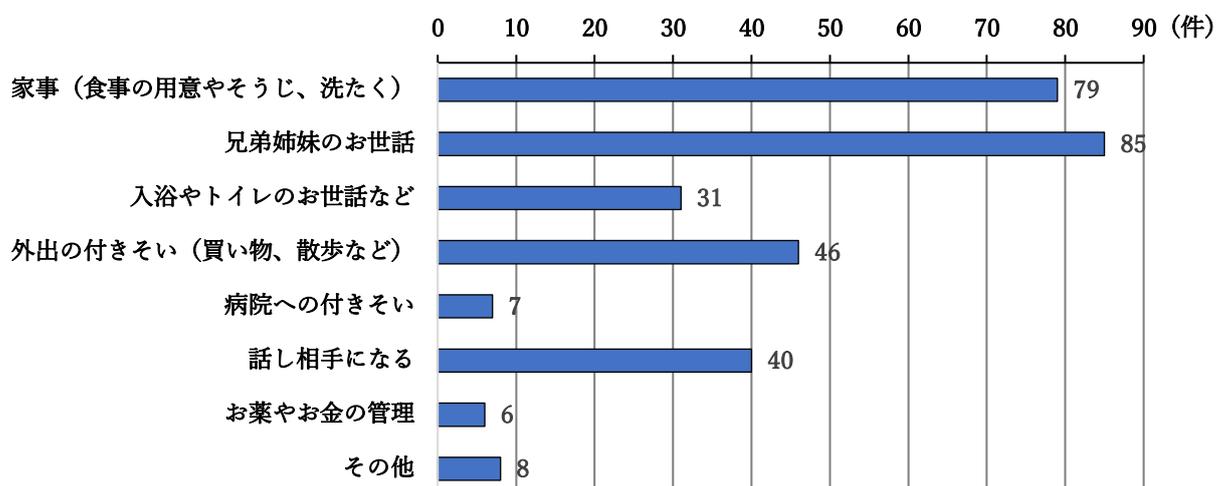


図16 お世話の内容について(複数回答)

問29では、お世話を行うようになってきた年齢(学年)を質問した。回答については、自由記載であったことから、記載方法が各々となったが、概ね、「小学4年生以降」の回答が多く見られたが、中には「小学1年生頃から」といった回答も寄せられている。

問30では、お世話の頻度について質問している。(P.25 図17)

「ほぼ毎日」が最も多く、回答の半数近くを占めている。次いで、「週に3~5日」という

結果になった。

問 31 では、お世話に伴い、「したくてもできていないこと」について質問（表 10）している。

大半の回答は「特にない」となり、概ねお手伝いの範疇によるお世話と解釈できるが、「学校に行きたくてもいけない」、「学校を遅刻、早退してしまう」を選択した回答者については、ヤングケアラーの可能性が高いと考えられる。

さらに問 32 では、自分の現在置かれている状況について、助けてほしいこと、手伝ってほしいことを質問（P. 26 図 18）している。これについても概ね「特にない」が多かったが、問 31 同様、ヤングケアラーの可能性を感じさせる項目（「家族のお世話について相談したい」、「家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい」）の回答が一定数あった。

このアンケートがヤングケアラーの早期発見、掘り起こし等に直接関与するものではないが、今回の調査結果を庁内関係課、各関係機関、学校等と情報共有を図っていくこととする。

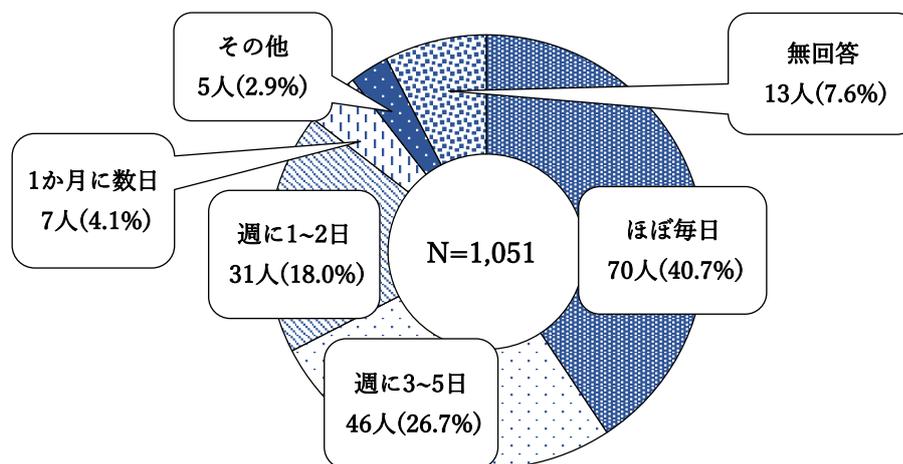


図17 家族のお世話の頻度

○表 10 家族のお世話をすることでできていないこと（複数回答） (件)

選択項目	回答数
学校に行きたくてもいけない	1
学校を遅刻、早退してしまう	1
宿題、勉強する時間が取れない	9
睡眠時間が不十分	7
友達と遊べない	6
習い事やスポ少ができない、もしくは辞めた	1
自分の時間が取れない	18
特にない	129
その他	0

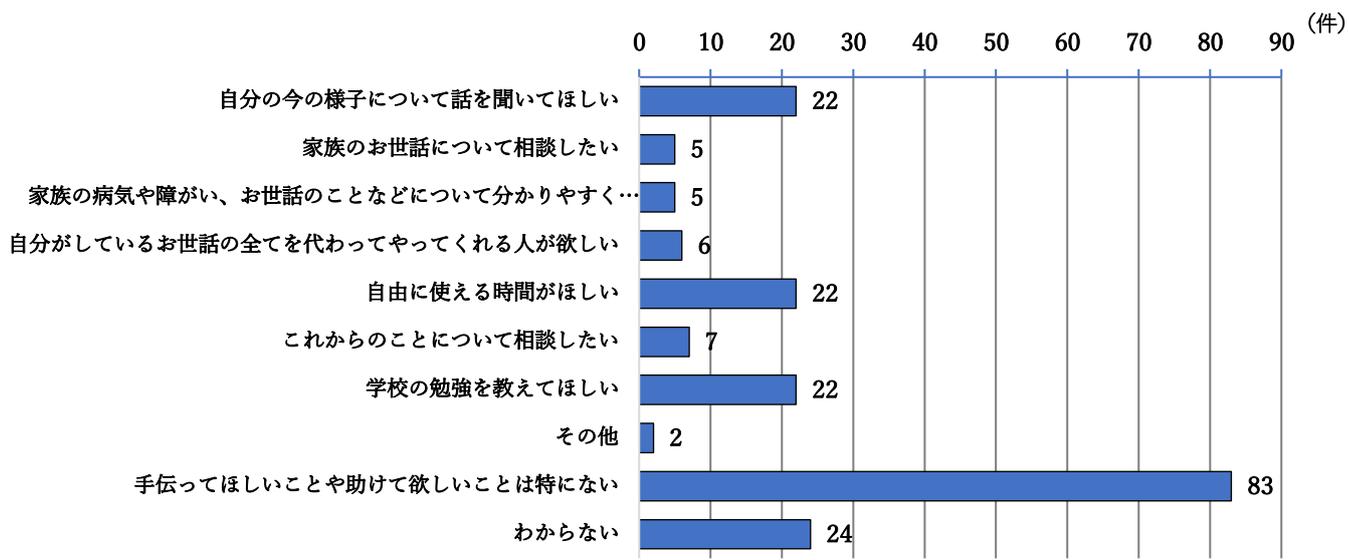


図18 大人に助けてもらいたいこと（複数回答）